

2004年3月期 中間期 業績概要

2003年10月30日
アンリツ株式会社
社長 塩見 昭

(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

中間期の総括

- 1 . 中間期業績はほぼ計画どおりに進捗し、
通期業績も当初計画どおりの見通し
- 2 . 固定費削減は計画どおりに進捗し、
損益を大幅に改善
- 3 . 運転資本の効率化・本社他売却等により、
フリーキャッシュフローを大幅に改善
- 4 . 受注は増加傾向、第2四半期の受注、売上
ともに前期比、前年同期比プラス

2004年3月期 中間期業績概要

(1) 損益およびキャッシュ・フロー

単位: 億円 ()は前年同期比増減額 : 損失

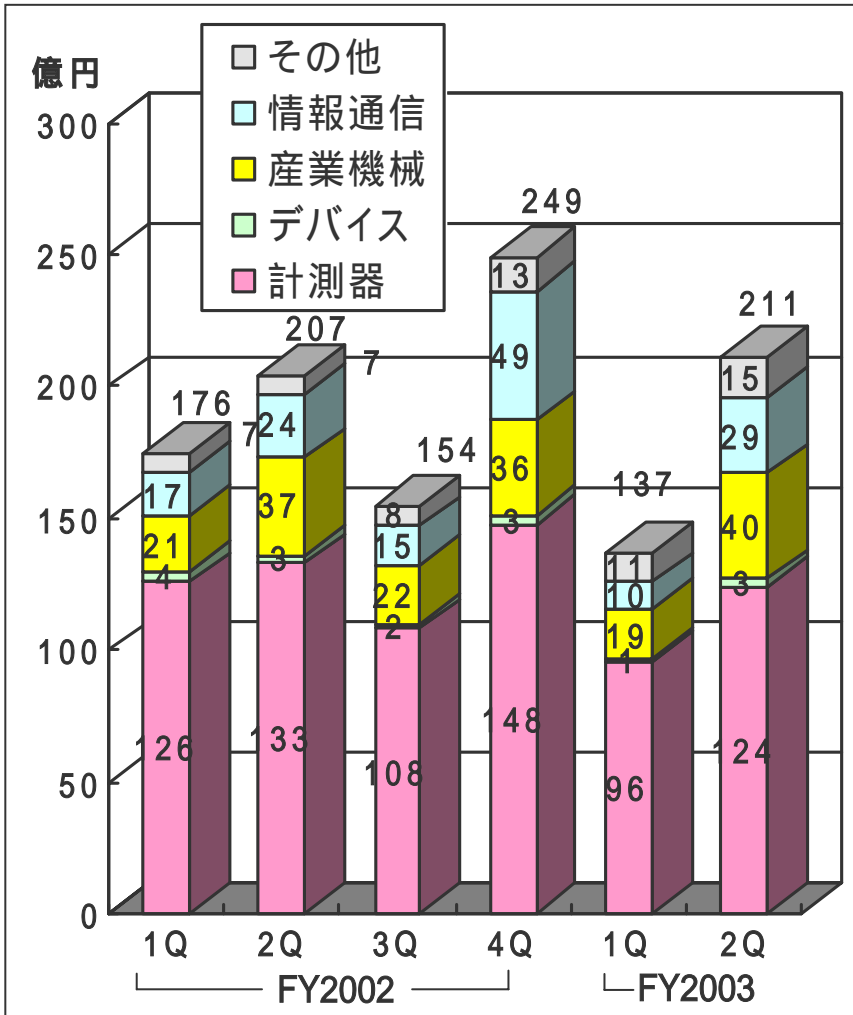
	当中間期				前中間期	
	連結		単独		連結	単独
売上高	348	(-35)	194	(-16)	383	210
営業利益	6	(+48)	14	(+53)	54	67
経常利益	35	(+37)	33	(+39)	72	72
税引前利益	18	(+210)	19	(+187)	192	168
当期利益	13	(+179)	16	(+154)	166	138
FCF	91	(+112)	77	(+140)	21	63

(2) 事業セグメント別(連結)

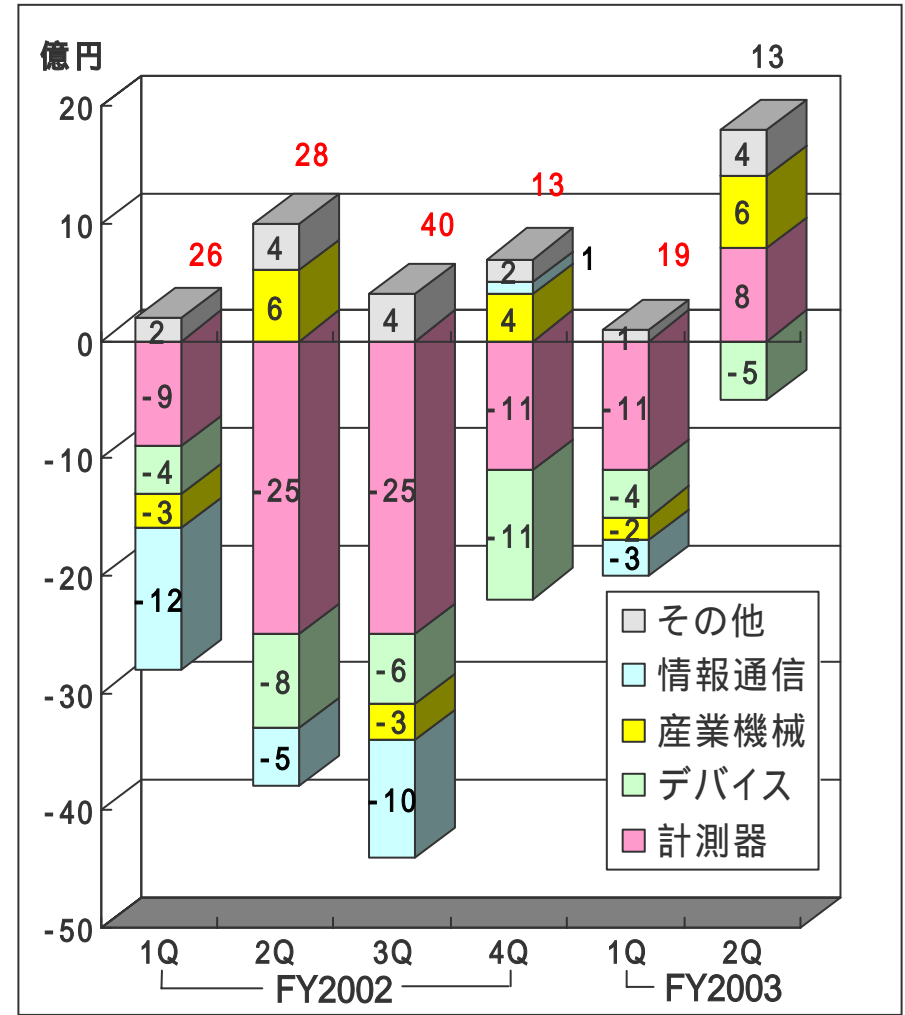
単位: 億円 ()は前年同期比増減額 : 損失

	当中間期				前中間期	
	売上高		営業利益		売上高	営業利益
計測器	220	(-39)	3	(+31)	259	34
情報通信	39	(-3)	3	(+14)	42	17
産業機械	59	(+1)	4	(+1)	58	3
デバイス	4	(-3)	9	(+3)	7	12
その他	26	(+9)	5	(-1)	17	6
計	348	(-35)	6	(+48)	383	54

事業セグメント別業績(連結)

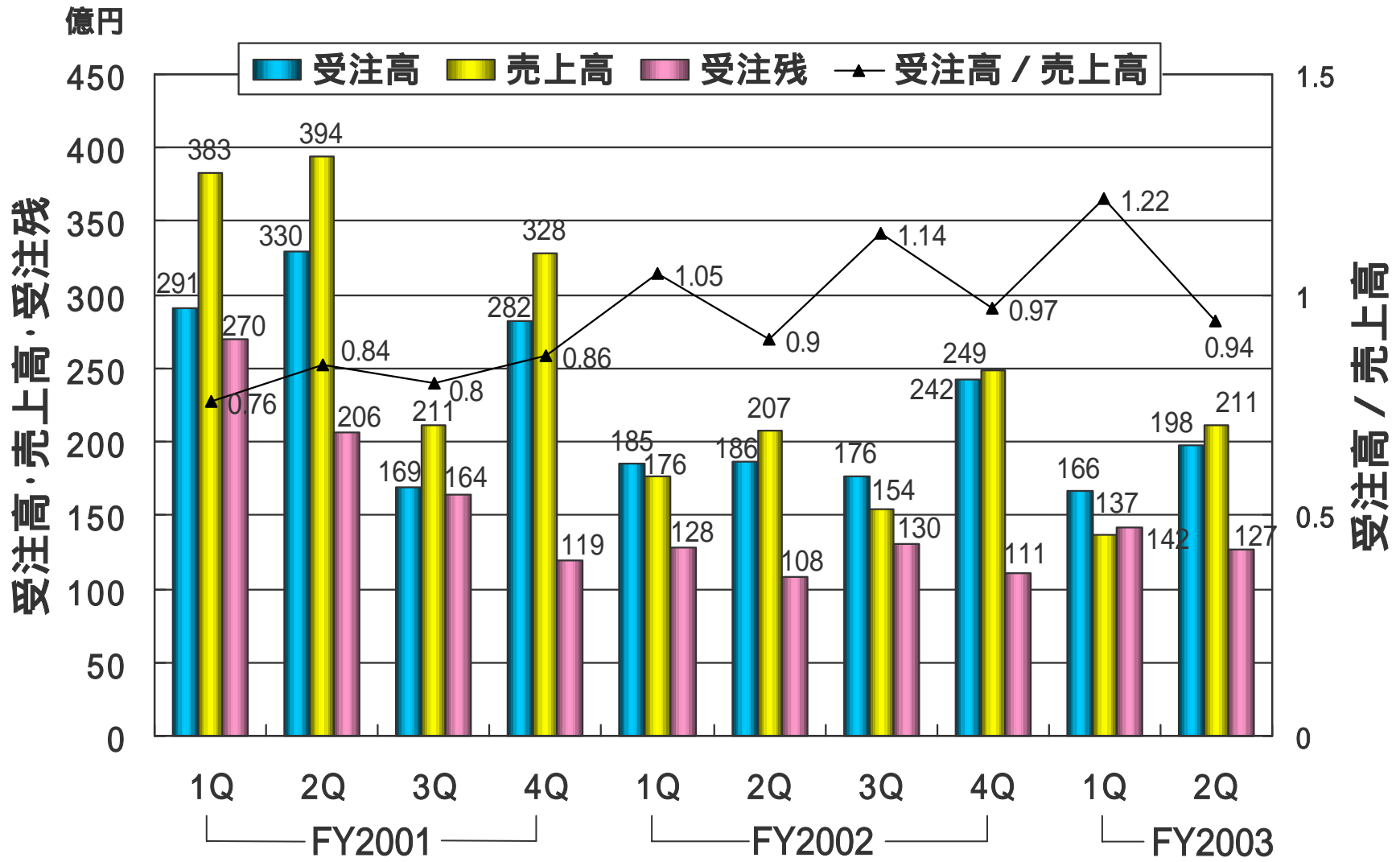


売上高

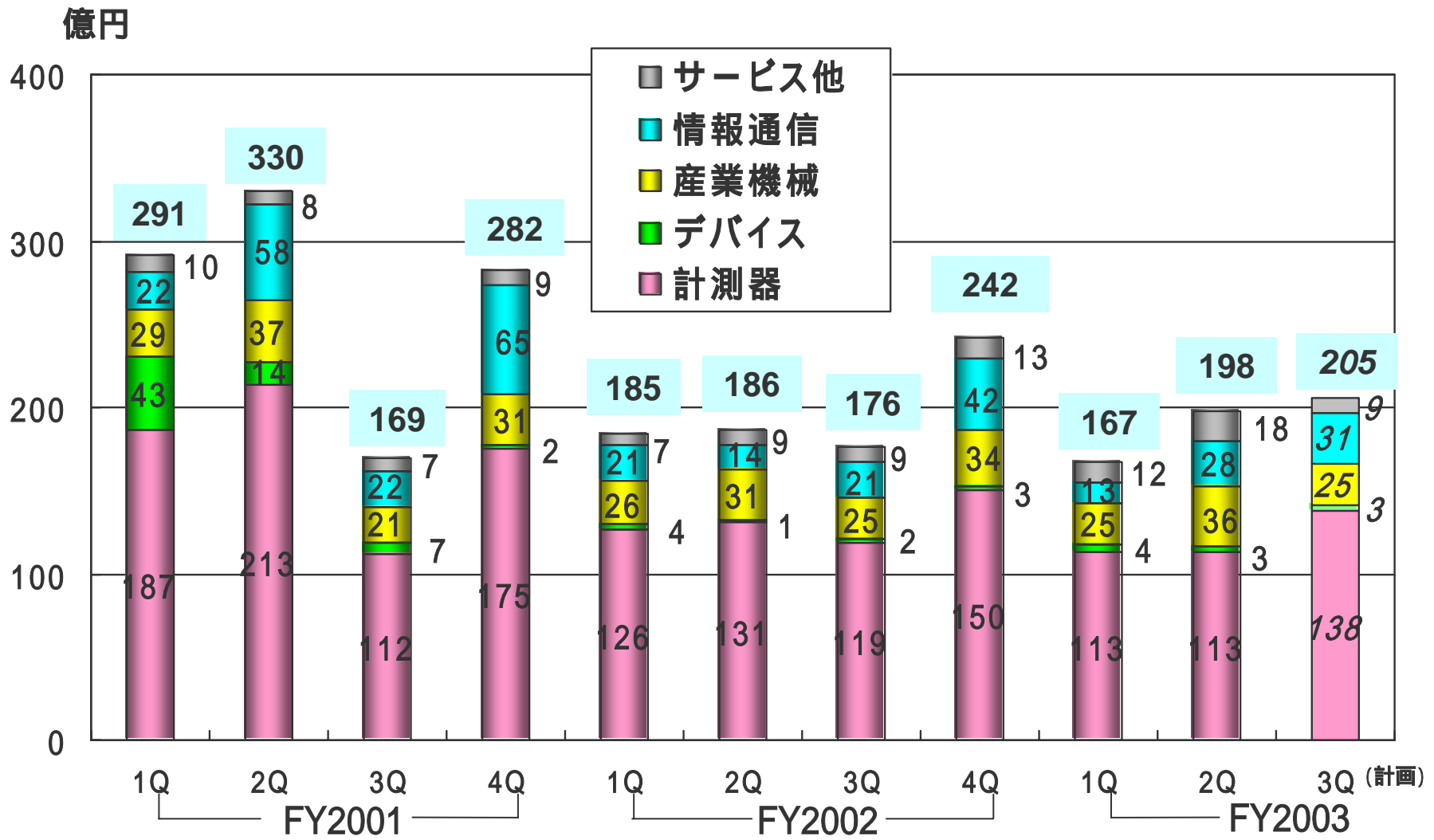


営業利益

受注・売上・受注残推移 (連結)



セグメント別受注推移 (連結)



営業外・特別損益概要(連結)

単位:百万円
:損失

	当中間期	前中間期
営業利益	641	5,441
金融収支	493	617
棚卸資産廃棄等	2,033	1,059
為替差損益	225	165
その他	90	33
営業外損益計	2,841	1,808
経常利益	3,482	7,249
退職給付関係		6,229
特別退職金		5,044
棚卸資産評価損等		13,173
固定資産売却損益等	4,857	
その他	385	3
特損益計	5,242	11,985
税引前損益	1,760	19,234
当期純損益	1,281	16,646

本社・戸田工場
跡地売却

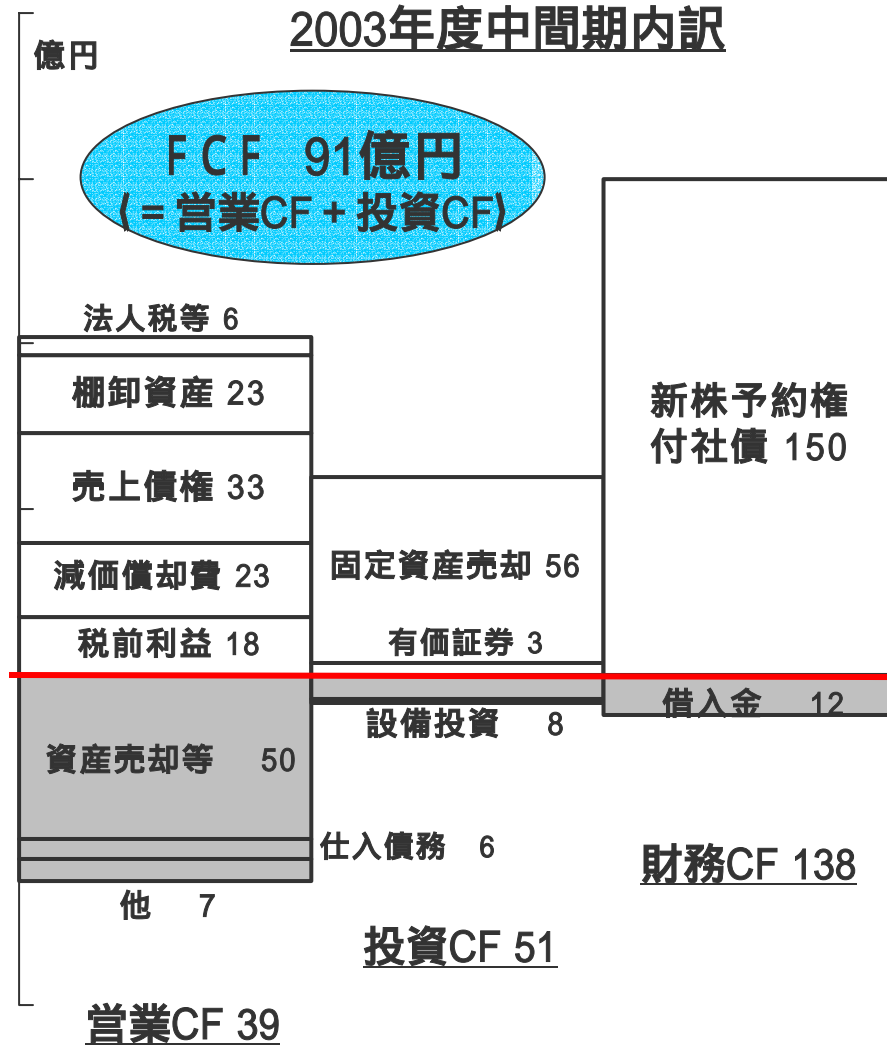
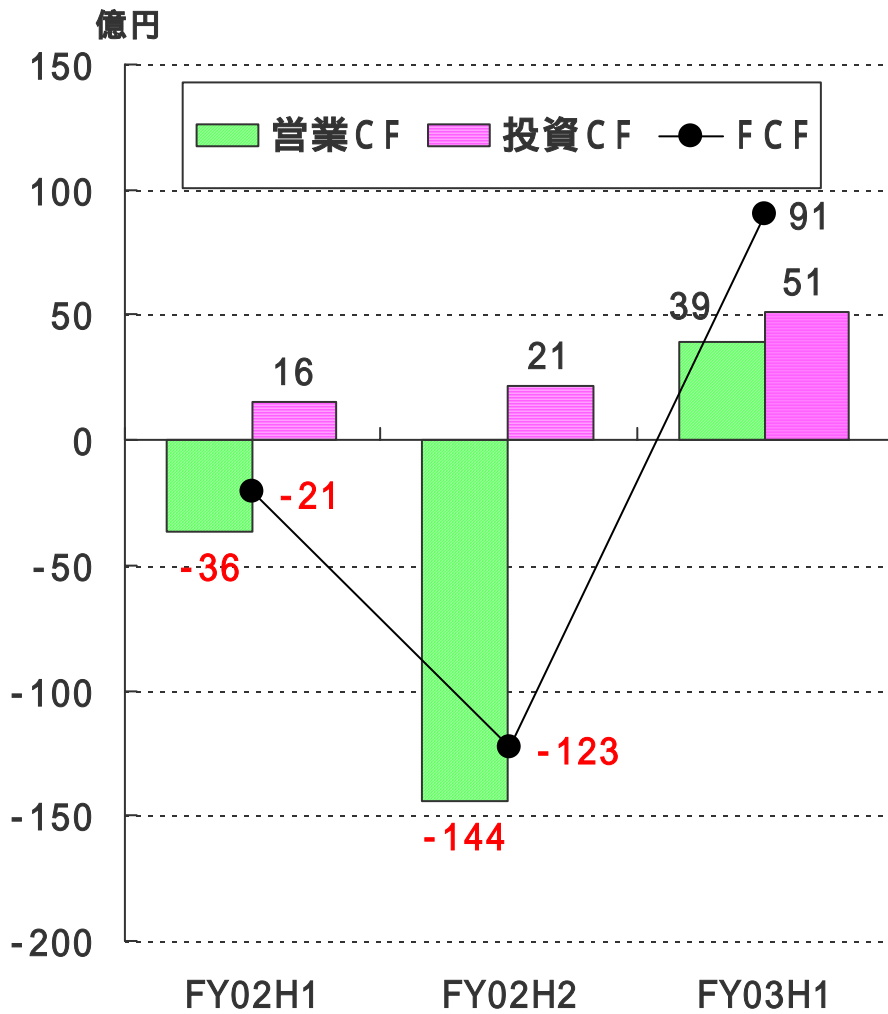
キャッシュフロー計算書(連結)

	当中間期	前中間期
1. 営業活動によるCF	39	36
税引前利益	18	192
減価償却費	22	30
固定資産等売却損益	57	
売上債権	33	100
棚卸資産	23	138
仕入債務	6	54
運転資本計	51	184
退職給付費用関連	7	94
法人税等	6	29
2. 投資活動によるCF	51	16
有価証券・投資有価証券	3	3
設備投資	6	16
事業・固定資産売却	56	32
フリーキャッシュフロー(1+2)	91	21
3. 財務活動によるCF	138	191
借入金純増減	12	45
CB・SB発行(償還)	150	142
配当金の支払		4
現預金の期末残高	392	182

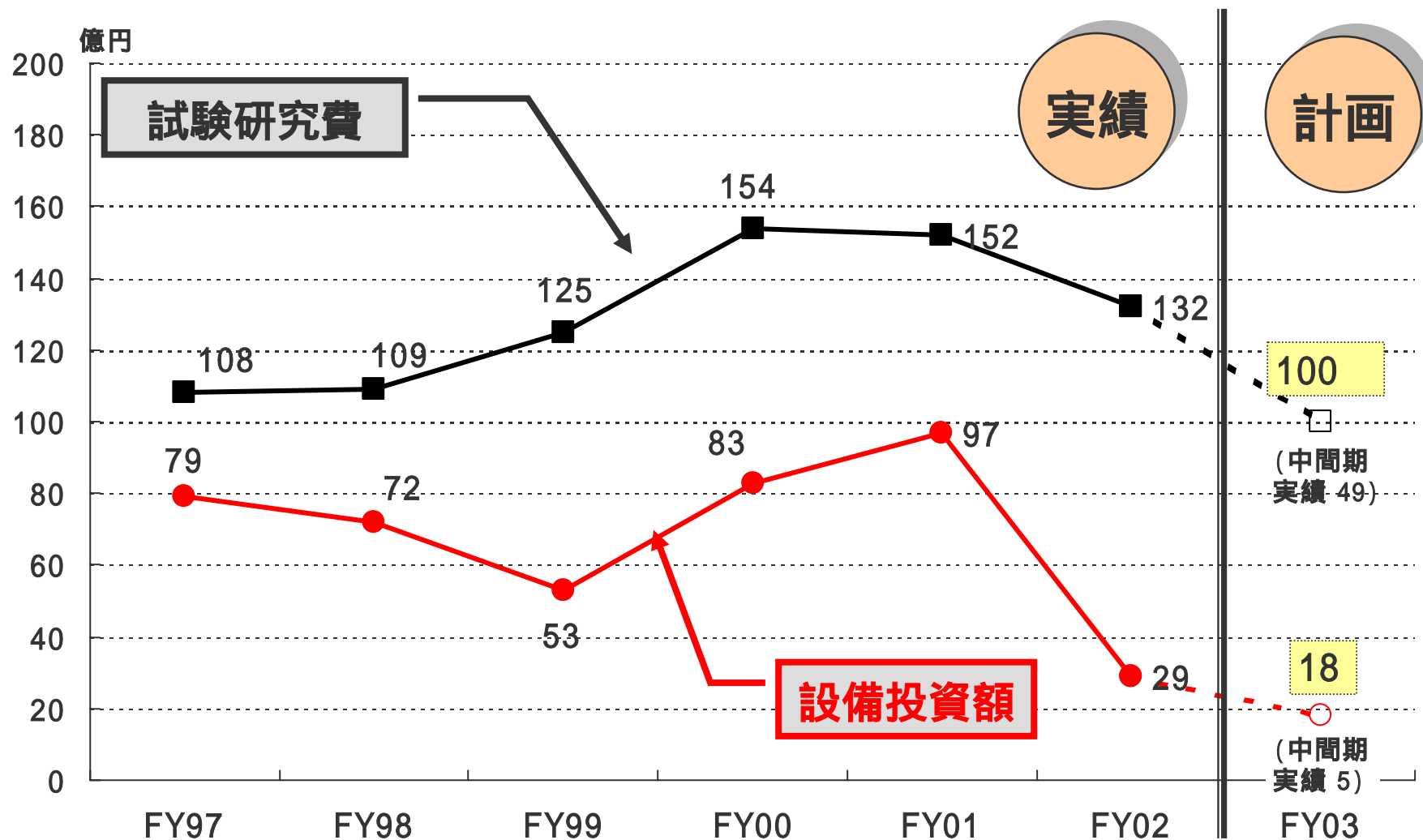
単位:億円
:損失

主な項目
のみ表記

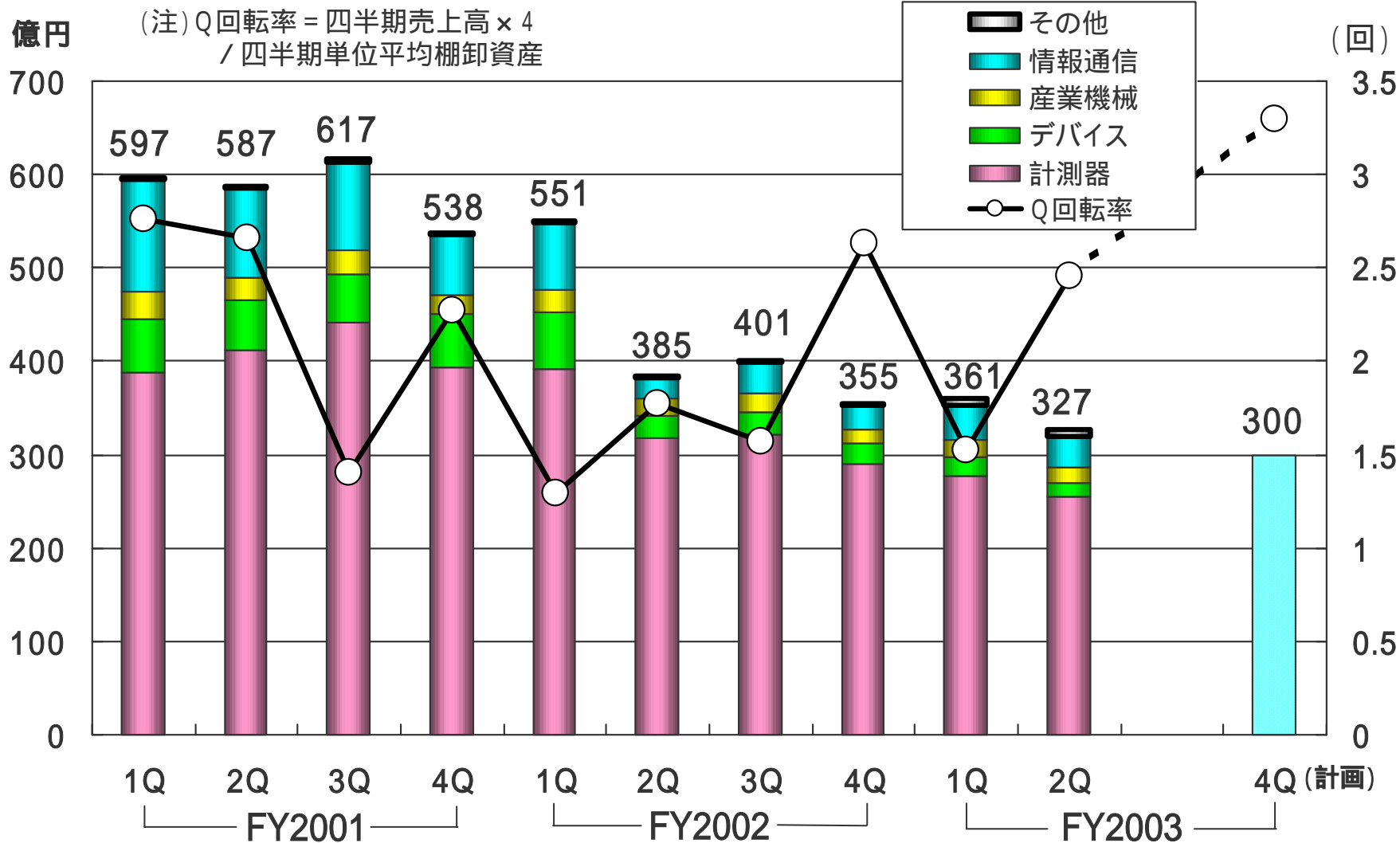
キャッシュ・フロー推移 (連結)



設備投資額・試験研究費推移(連結)



棚卸残高推移 (連結)



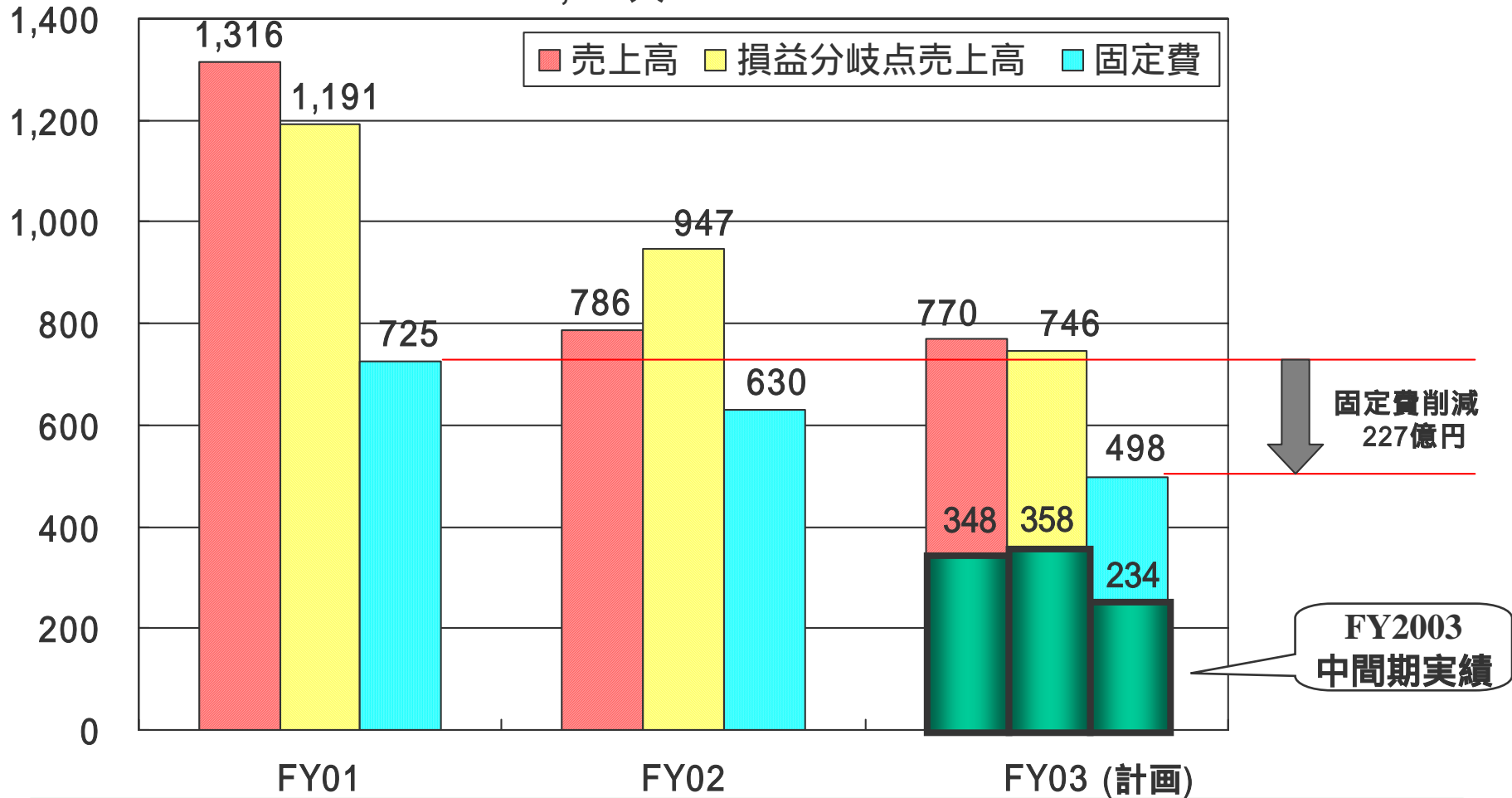
費用構造の改善状況(連結)

(‘01/9末人員;5710人)

(‘03/9末人員; 3,627人)

2,083人

億円



第3四半期以降の見通し(1/3)

• 通信市場の見通し(国内の計測器)

- 3G携帯電話機の生産設備投資は相変わらず旺盛
 - 第1四半期時点の受注ペースが継続
 - FOMAの本格的立ち上がり

当社の計測器の強み

- マルチシステム対応 : W-CDMA, cdma2000 1x/1xEVDO, GSM/GPRS/EDGE, PHS等
- W-CDMA用計測器の充実: GCF承認済みのテストケースを提供
- 3.5G携帯電話機開発用計測器の需要具体化
- ブロードバンド化のために、アクセス系の光通信ネットワーク化(FTTH)が加速
 - 光ファイバーの敷設工事用に、OTDRの需要
 - 10G Ether関係の需要が出始める

第3四半期以降の見通し(2/3)

• 通信市場の見通し(海外の計測器)

- Telecom 2003で欧州、アジアでのW-CDMA本格化の兆し
- 中国の携帯電話機の生産設備投資は相変わらず旺盛
 - EMSから、欧州市場向けGSM/GPRS、W-CDMA端末生産用測定器の需要
 - PAS(PHS)加入者増に対応し、端末生産用測定器の需要旺盛
- 光/デジタル通信ネットワークへの投資は底入れの兆し
 - 中国市場：SDH回線の支線系強化に伴う測定器需要
 - 米国市場：RBOCのブロードバンド投資(FTTP)に伴う測定器の需要(本格化は2004年以降)

第3四半期以降の見通し(3/3)

- **情報通信機器**
 - テレメーター・画像監視システムの需要継続
 - 国内公衆電話の需要は漸減方向
- **産業機械**
 - X線異物検出機の需要好調、下期は新製品投入効果期待
- **デバイス**
 - 分社化(10月1日)により、収益見通しの立つ事業を目指す
 - コア技術(高出力LD、高感度デバイス)を活かし、メトロ・アクセス系、非通信系用途拡大を目指す

2004年3月期 年度業績見通し

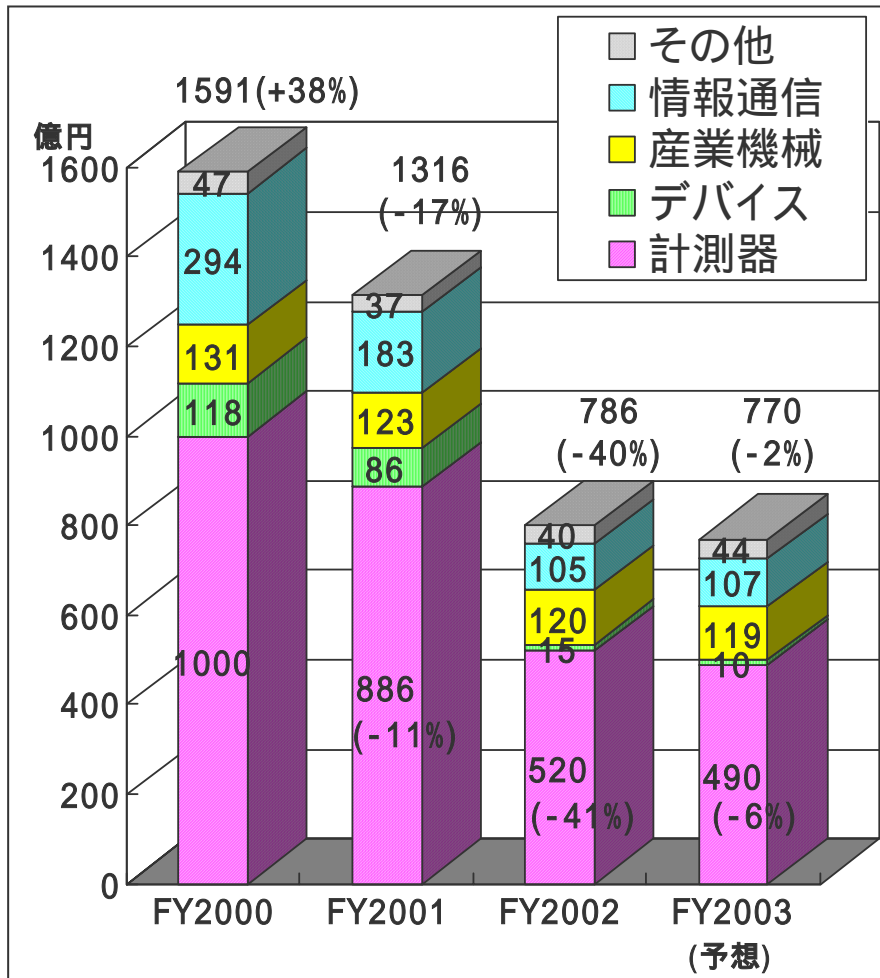
(1) 損益およびキャッシュ・フロー 単位: 億円 ()は前年同期比増減額 : 損失 *イタリック数字*: 今回変更

	当期見通し		前期実績	
	連結	単独	連結	単独
売上高	770 (-16)	460 (+12)	786	448
営業利益	16 (+123)	0 (+123)	107	123
経常利益	34 (+104)	38 (+97)	138	135
税引前利益	<i>19 (+371)</i>	<i>14 (+311)</i>	352	297
当期利益	10 (+338)	10 (+283)	328	273
FCF	<i>95 (+244)</i>	<i>80 (+261)</i>	149	181

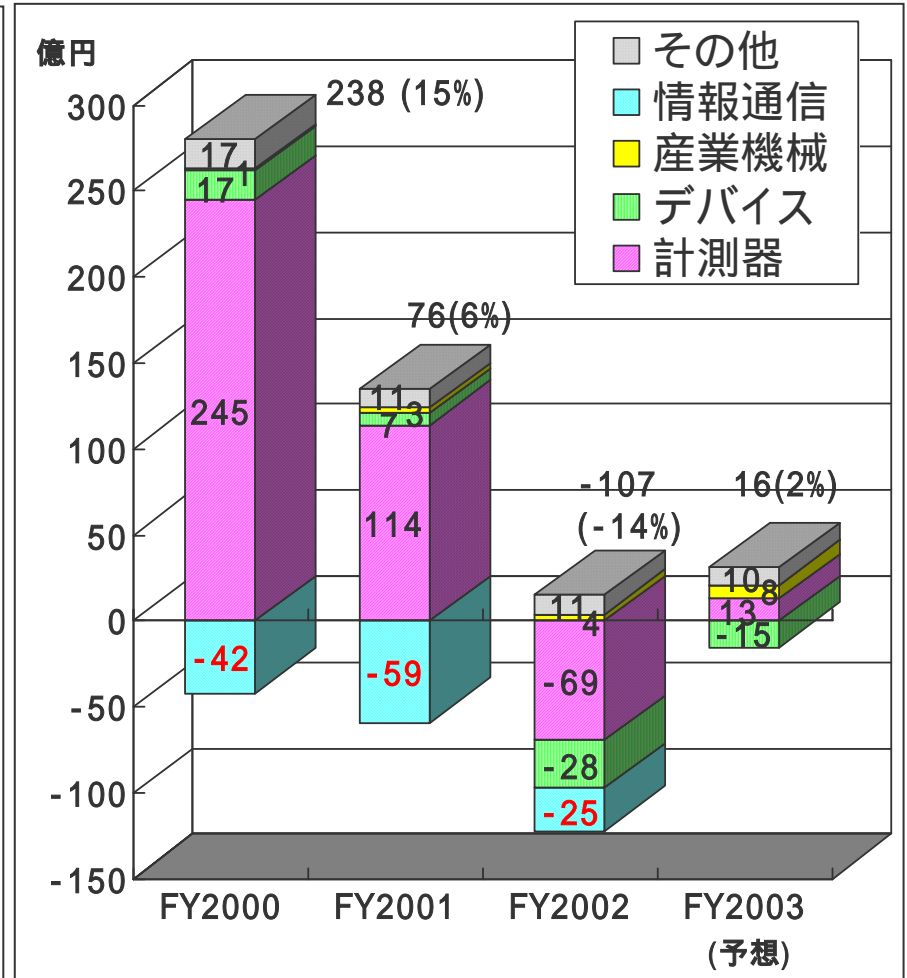
(2) 事業セグメント別(連結) 単位: 億円 ()は前年同期比増減額 : 損失 *イタリック数字*: 今回変更

	当期見通し		前期実績	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
計測器	<i>490 (-28)</i>	<i>13 (+82)</i>	518	69
情報通信	107 (+1)	0 (+25)	106	25
産業機械	119 (+3)	<i>8 (+4)</i>	116	4
デバイス	<i>10 (-2)</i>	<i>15 (+13)</i>	12	28
その他	<i>44 (+10)</i>	<i>10 (-1)</i>	34	11
計	770 (-16)	16 (+123)	786	107

事業セグメント別業績見通し(連結)



売上高 (%) : 前年同期伸率



営業利益 (%) : 営業利益率

注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。